

末期腎不全患者への維持透析導入と保存的腎臓療法の健康関連QOL:

システマティックレビューとメタアナリシス

末期腎不全(ESRD)は不可逆性の腎機能の廃絶であり、患者は腎代替療法(RRT)なしでは生命機能の維持が困難である。末期腎不全の患者数は人口の高齢化とともに世界中で増加しており、今後も増加し続けることが予測されている。これまで、末期腎不全に対してはほとんどの場合、維持透析(腹膜透析あるいは血液透析)や腎移植が行われてきた。

しかし、高齢者(特に80歳以上)には、維持透析を行っても生命予後に有意な差は生じないことが指摘されている。一方、維持透析は穿刺痛、頻繁な来院、長時間の拘束、心臓への負担、日々の生活への制約などの理由で患者の健康関連QOL(HRQOL)に悪影響を与えている。そのため、保存的腎臓療法(CKM)が選択肢として再注目されている。

CKMは透析を行わず、精神的サポートや緩和ケアなどを行う治療を指し、患者の日々の生活に制限を付加しないと考えられている。過去にはCKMと維持透析を生命予後などの項目について比較した観察研究をもとにシステマティックレビューも実施されており、CKMが維持透析と比べて、HRQOLを向上させる可能性も示唆されてきた。しかし、過去のレビューは、組み入れた研究の異質性の大きさからHRQOLについてのメタアナリシスは実施できておらず、研究の異質性についても、その背景については分析がされていない。また、直近のこの分野のレビューが対象にしているのは2019年以前の文献であり、現在までに組み入れ可能な研究も増えていると考えられる。

卒業研究では、HRQOL及びそれに関連した副次アウトカムについてメタアナリシスを行うことを試みる。異質性の問題からメタアナリシスが実施できない場合は、国・地域の社会的・文化的背景を考察し、異質性の原因を分析することを予定している。本抄読会では、検索式及びデータベースに関する現段階の経過報告と今後の展望を述べる。

参考文献

1. Engelbrecht, Buur Louise, et al. "Does conservative kidney management offer a quantity or quality of life benefit compared to dialysis? A systematic review." *BMC nephrology* 22 (2021): 1-11.
2. Ren, Qingli, et al. "Quality of life, symptoms, and sleep quality of elderly with end-stage renal disease receiving conservative management: a systematic review." *Health and quality of life outcomes* 17 (2019): 1-9.
3. Verberne, Wouter R., et al. "Health-related quality of life and symptoms of conservative care versus dialysis in patients with end-stage kidney disease: a systematic review." *Nephrology Dialysis Transplantation* 36.8 (2021): 1418-1433.